

Okakura Kakuzo

倉天心全集
8

平凡社

岡倉天心全集 (全九卷)

第八卷 定價 五四〇〇円

一九八一年四月二十四日 初版第一刷発行

著者 岡倉天心

発行者 下中邦彦

発行所 株式会社 平凡社

東京都千代田区四番町四番地
郵便番号一〇二
電話〇三(二六五)〇四五一
振替東京八一二九六三九

印刷 東洋印刷株式会社
製本 株式会社石津製本所

凡 例

一、本全集は、岡倉天心の著書、著述、講演、談話、未発表草稿、日記、ノート、書簡などを、現在可能な限り蒐集し、これに関連資料を付して、集大成したものである。

二、著書、雑誌、新聞に発表された論稿は、原則として初出を底本とし、自筆原稿あるいは異本との異同を校訂した。

三、英文の著書、著述、未発表草稿、書簡は、厳密な校訂をほどこした後、すべて新訳して収録した。

四、自筆の日記、旅行日誌、古社寺調査手録、ノートなどは、できるだけ原型を損わぬよう翻刻した。

五、収録文は底本を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便宜をはかるため、次の方針で整理した。

1 原題のない草稿や新聞掲載の講演速記などには、編者による標題を掲げた。

2 漢字は新字体を使用し、俗字・略字は通行の字体に改めた。

3 あきらかな誤字・誤植は訂正し、誤使用あるいは正誤を判断しかねる用語・用法には、その初出に「ママ」を付した。また、現在通行の用法では誤字・誤記に類する用法も、文意が通ずるかぎりには敢えて改めなかつた。

4 仮名遣い、平仮名・片仮名の別、および濁音表記は底本通りとし、変体仮名(例 ま↓れ)、合字(例 斤↓トモ)などは通行の文字に改めた。

- 5 底本が自筆原稿の場合、文意の通じにくい字句、固有名詞の誤記などは「」内に註記した。(例 渴ヲ医スル〔ニ〕足ル、姜委)^{〔維〕}
- 6 句読点、改行、字下りなどの扱いは、通行の方式にしたがって整理したが、底本が自筆原稿、書簡などで句読点のない場合は、おおむね句点にあたる箇所および読み誤りやすい箇所を一字あけにした。
- 7 みせ消ちは原則として翻刻せず、内容理解に必要と思われる場合のみへゝ内に翻刻した。欄外の記入は「」で相当する箇所に入力した。
- 8 破損、その他判読不能の箇所は、□□、□□□□、□□□□□□のように示した。
- 9 必要に応じてルビを付し、現代仮名遣いをもって表記した。底本が総ルビの場合は、特殊な読み方などを残し、他は省いた。
- 10 天心作の漢詩は第七巻で一括して訳註を付すため、本文中では白文のままとした。

本巻(第八巻)には、古社寺調査手録、ノート、雑纂、翻訳を収録、時代順に配列した。いずれも最初の翻刻であるが、翻刻困難な「落款・印章ノート」は写真版で収録した。

なお、本巻では校訂上、次の方針を追加した。

○天心の誤使用(講議〔義〕、王候〔侯〕など)は初出にのみ「ママ」を付し、敢えて訂正しなかった。

○欧文の場合、スペリングの誤りは正したが、文法上の誤り、意味不明の箇所、スペリングの不明な人名などは原文のままを翻刻し、^①はいっさい付けなかった。ただし、日付や箇条書きナンバーの重複などには sic を付した。

○ 欧文中の和文は、原則として縦組にしたが、読みやすくなるため横組にした箇所もある。

○ 図版や表は本文関連部分のできるだけ近くに挿入し、かつ必要に応じて〔上図〕〔下図〕のように示した。錯綜した表は整理・省略したものもある。

目
次

凡例

古社寺調査手録

奈良古社寺調査手録(明治十九年).....	5
近畿宝物調査手録(明治二十一年).....	47
古社寺調査メモ.....	78
古画巡覧日程.....	82
ノート	

英文ノート.....	87
泰西美術史ノート.....	141
落款・印章ノート.....	200
近世画家系図ノート.....	222
落款・印章・略伝ノート.....	230
文藝史談解題.....	237
近代日本歴史年表ノート.....	264

雑纂

音楽取調掛・自筆書類 345	鑑画会関係自筆書類 356	Outline of School of Art 357	仏英独博物館
----------------	---------------	------------------------------	--------

調覚書	358	絵因果経購入願	359	日本美術史編纂綱要挿入メモ	359	意匠研究会草案	367	国立美術博
物館に関する建議書	下書き断片	367	漢時画ノート	367	道教ノート	369	「日蓮上人絵伝」贊助依頼	
趣意書草稿	372	一雄・高麗子日課表	373	弥勒菩薩胎内願文	374	フェノロサ追悼法会関係者名簿	375	
貼紙	377	靈照女の事	377	観山会趣意書・規約	378	「平家物語絵巻」命題稿	379	法隆寺金堂壁面保
存建議案断片	380	ボストン美術館所蔵自筆草稿	381					
翻訳								
ビゲロー氏の演説						443	
美学	フェノロサ講述					450	
解説						479	
							福永光司	
解題						495	

岡倉天心全集 第八卷

古社寺調査手録

奈良古社寺調査手録 (明治十九年)

◎古画五尊像

法隆寺

四月一日 午下 博覧会社本社

大幡 上三尊下弘法聖徳太子 蓮花等妙ナリ 左方

○吳道子伝観音 長谷寺

虚空蔵中大日如来美線 妙ナリ ヒモ袈裟ハ興正

元画ナラン 不用ナリ

〔善〕薩アリトノ説アレトモ画ニ掲ク 證明スルヲ要

山上権現 長谷寺

ス 宅磨為成ノ子 830年後ナランカ

○役小角 中

○十六羅漢

法徳寺

蔵王権現 〃

惠北坊辺ノ宅磨カ 悪ナリ

明兆ト伝フ □人ノ画カ

⊕執金剛神

東大寺法花堂

⊕赤童子 法徳寺

古唐画ノ風アリ 東坊寺ノ韋駄天ニ似タリ 赤身二

古巨勢先見公画ト称ス 二等品 腹中 姓名 定朝

等トシテ⊕ノ方

ノ時代ヨリ新タナル能ハス 能ク考フルヲ要ス 先

前出

キニアリ 当時金岡辺ノ思想アルカ

○春日天燈鬼

⊕十大弟子 興福寺

康弁ノ各腹中アリ 六百年ナリ 一

五六個 乾漆 古代ノ作ナリ「日本ニテ朝鮮」顔色

妙ナリ

〔破損〕

塑像 脇士ノ一

法隆寺

美顔ナリ 猶考フヘシ 聖武時代ナルモ精神ナシ

⊕四天王 巴斯風

法隆寺

金堂ノ内 アシリヤ風アリ

⊕維摩木像

法華寺住 近衛氏蔵

木像上乾漆 顔色非凡ナリ 聖武前ノ肖像風ナリ

僧ノ肖像カ

⊕多門コウ天像 四体ノ一

円城寺

運慶ト伝フ 古シ 聖武ノ後ナルヘシ

⊕大日如来

招提寺

小幅 三円光線微細ニシテ高尚ニシテ技術疎 一等

品ナリ 800 900年ノ品 春日ナルヘシ

○如意輪觀音繡仏

法華寺住職 近衛某蔵

明細ナリ

○文珠

薬師寺

⊕十六羅漢

法華寺 近衛高鳳蔵

十六幅 馬上ノ羅漢アリ

着〔色カ〕

怪奇

参考ニ供ス

ヘシ 売品ナリ 非常ノ名画ナリ 二等品ナリ 且

繕ヒアリ 薬師画ニ似テ後ナリ 廉価ナレハ⊕ニ供

スヘシ 聖武後ナランカ 精神ナシ

⊕十六羅漢

東大寺戒壇院

伝云牧溪 先年摸ス所ナリ 顔輝カ 元画ナルヘシ

○文珠像

法起寺住職 起戒学所蔵

大幅 八百年ノ巨勢家ナラン 線 廉価ナラム⊕

摸スヘシ 高品ニシテ買フヘカラス

⊕金光明四天王護国ノ寺 聖武帝宸筆 東大寺蔵

聖武風ノ参考ナリ 東大寺国分門 一名雲井門ニ掲

ケ頭上ノ粧飾ハ建久ノ時付ケタルナラン

○古銅如意輪

法起寺住職蔵 起戒学所蔵

印度式ナリ 廉価ナラハ⊕スヘシ 大美ナリ

⊕華原磬

春日神社蔵

四龍磬 不二ノ名宝 銅作中ノ大作 御物ノ宝鏡ト

並称スヘシ 必ス⊕スルヲ要ス

⊕鼓胴 一個

手向山社

⊕同上 二個

平群郡 朝護孫子寺

聖武同時着色参考

⊕木造瓶子

手向山神社

密陀画 御倉ノ□□ニ似タリ ⊕ニナスヘシ

⊕十二神将 十二個

興福寺

定朝作ナルヘシ 腹内ニ寄附者ノ姓名ヲ記シタル箋

アリ 八百年前ノ人多シ 切金ヲ用キス 玉眼ヲ用

キス 彩色異ナルヲ以テ此時代ナリト思考ス 二等

二モヲ^ニ⊕スル方宜シカラ^ン

弘高時代ノ風アリ

⊕天燈鬼

春日神社

⊕行基僧正

西大寺蔵

美線

○羅漢

奈良 花岡正直蔵

衣紋美ナリ 興福寺ノ画ニ似タリ 写真ヲ取ル事宜

シカラ^ンカ

○十二神将

靈山寺

奇惡ニシテ美ナラス

⊕十二神将ノ内 一体

法隆寺

運慶ト伝フ 玉眼ナルヲ以テ曰フ

⊕⊕行基木像 自作

蓮城寺^ト

美線ナリ 彩色妙ナリ

⊕薬師十二神将

興福寺

弘法ト伝フ

⊕観音木像

紀寺町 蓮城寺蔵

定朝ナルヘシ 古代ナラサレトモ美線ナリ 900 春

日風ナリ 一等品ナリ 三仏ノ一ナリ

○如意輪観音

法隆寺

調子凡 持仏 800年後ノモノナラン 二等品トシテ

⊕スル方ヨカラ^ン

○閻魔王木像

東大寺差図堂

大像 之ヲ祭ルハ念仏宗ノ起リヨリス 建久後ナラ

ン 白毫寺ノモノニ似タリ 前ノ宅磨ノ衣紋ニ近シ

○十王像 二体ノ内

白毫寺

五百年ノ作ナランカ 頭中ニ仏師ノ作^ト

○四天王木像 四体ノ内

大安寺蔵

肥大ノ作 天平後ノ「AD750」モノニシテ二等品ト

シテ⊕スル方然ランカ

○虚空藏木像

大安寺

一体 美線ナリ 古作ナレトモ破壊シテ見ル能ハス

宜シカルカン 弘法前ノ画 唐人カ且ハ弟子ナラ

ンカ 天平後ナラン 今日韃靼風モ此余風アリ

⊕鑑真和尚像

東大寺

机上坐像睡ル様アリ 机ノ獅子妙ナリ 宅磨勝賀ナ

ルヘシ

⊕不動 智證ト伝

東大寺

台座ノ下火焰出 黄不動ヲ真トスレハ智ニ非ス 同

時代ナリ 支那ト日本ノ風アリ 二品トシテ⊕ナ

ルヘシ

⊕小野篁

弘仁寺

大師筆 踞ハ七五十年頃迄ナシ 濱床モ同時ナリ

神モ同様ト伝フ⊕

弘法像 篁筆ト伝フ 後ナリ 後ニ摸シタルモノナ

リ

⊕弥陀三尊

法花寺

弘法金剛間ノ大幅 殆ソト金岡ニ近シ 少シ前ナラ

ンカ 妙線 大作独歩 日本大作ノ一ナリ

○古曼陀羅

徳融寺

破滅シテ見ルヘカラス 蓋シ古代名画ナリ

○春日曼陀羅

中島蔵

妙ナレトモ見ルヘカラス

⊕十六羅漢

招提寺

十六幅ノ内 一幅 着色 顔色愛スヘシ 宅磨榮賀

「二代」ノ前カ

⊕涅槃像

東大寺

金線微細ナレトモ力ナク法眼円伊ニ近シ

○釈迦十六羅漢

法隆寺

九鬼氏薬師ニ近シ 巨勢派ニシテ有宗ニ近シ 700年

頃ナリ

⊕大威徳明王

招提寺

古画大幅 弘法同時